



ASEANのインド太平洋構想（AOIP）： 求められる構想の具体化とFOIPとの連携

石川 幸一

2020年3月

一般財団法人 国際貿易投資研究所(ITI)
INSTITUTE FOR INTERNATIONAL TRADE AND INVESTMENT

目 次

はじめに.....	1
1. インドネシアのインド太平洋構想.....	2
(1) インド太平洋友好協力条約の提案.....	2
(2) レトノ外相のインド太平洋協力構想.....	3
(3) なぜASEANの合意まで多くの時間を要したのか.....	6
(4) 評価すべきインドネシアの構想と役割.....	6
2. ASEANのインド太平洋構想の概要.....	7
(1) 背景と理由.....	7
(2) 主要な要素.....	8
(3) 目的.....	8
(4) 原則.....	8
(5) 協力分野.....	9
(6) メカニズム.....	11
3. AOIPの意義、特徴、各国の反応.....	11
(1) AOIPの意義と特徴.....	11
(2) AOIPに対する主要対話国およびASEAN各国の対応.....	14
(3) 課題.....	15
おわりに.....	16
参考文献.....	16

ASEAN のインド太平洋構想 (AOIP) : 求められる構想の具体化と FOIP との連携

亜細亜大学アジア研究所
特別研究員 石川幸一

はじめに

2016 年に安倍総理が「自由で開かれたインド太平洋戦略 (Free and Open Indo-Pacific: FOIP)」を発表してから、2017 年に米国、豪州、2018 年にインドがインド太平洋構想を発表した¹。一方、太平洋とインド洋の間に位置する ASEAN の発表は遅れ、2019 年 6 月に ASEAN 版インド太平洋構想 (ASEAN Outlook on the Indo-Pacific : AOIP) を明らかにした。

ASEAN ではインドネシアがインド太平洋構想に積極的であり、ユドヨノ政権時にマルティ外相が「インド太平洋友好協力条約」を提唱し、ジョコ・ウィドド (ジョコウィ) 現政権ではレトノ外相が「インド太平洋協力構想」を提案した。インドネシアの構想は ASEAN 首脳会議や外相会議に提案されたが合意を得られず、インドネシアの粘り強い外交努力により、2019 年に至り採択されたものである。

日本、米国、豪州、インド、ASEAN の 5 つのインド太平洋構想は、アジア太平洋地域とインド洋地域を一体としてとらえ、経済開発と地域協力および海洋の安全保障協力を行う点では共通しているが、違いも大きい²。AOIP の特徴は、①ASEAN 中心性、②中国を含む、③経済社会協力を重視、であり、FOIP との違いは大きい、ASEAN の主要対話国は AOIP を歓迎・評価している。

本論の目的は、AOIP について経緯、内容、意義と特徴を検討し、課題を明らかにすることである。そのため、ASEAN の中で唯一インド太平洋構想を提唱し、AOIP の草案を作ったインドネシアのインド太平洋構想をまず検討し、次に AOIP の内容を詳しく紹介している。その上で AOIP の意義、特徴、課題を論じている。

1. インドネシアのインド太平洋構想

(1) インド太平洋友好協力条約の提案

インドネシアは世界最大の群島国家であり、太平洋とインド洋の間に位置している。海洋領域の管理が国益にとり極めて重要と考えるのは自然である。インドネシアがインド太平洋構想を明らかにしたのはユドヨノ政権時代である。同政権のマルティ外相は、2013 年 5 月 20 日に米国の戦略国際問題研究所（CSIS）で「インド太平洋についてのインドネシアの視点（An Indonesian Perspective on the Indo-Pacific）」という演説を行った³。

マルティ外相は、インド太平洋は「北は日本、南東は豪州、南西はインドに囲まれた地域」であり、インドネシアが中心に位置し、世界で最もダイナミックに経済発展している地域と述べている。今までは政治と経済面で太平洋とインド洋を分けて考えていたが、今後はインド太平洋地域という新たな国際的な地域秩序で考えねばならないと主張した。さらに、インド太平洋地域の平和と安定の課題として、①信頼の欠如（trust-deficit）、②未解決の領域紛争（unresolved territorial claims、dispute）、③変化、とくに変化する 2 国間関係（米中、日中、中印など）の影響の管理の 3 つがあると論じた。そして、インド太平洋をみる新たな視点として動的均衡（dynamic equilibrium）を提示した。動的均衡はユドヨノ政権の外交方針であり、「大国の権力政治に与せず、大国間の相互けん制による力の均衡を確保しつつインドネシア（および ASEAN）の外交戦略空間を拡大しようという考えに基づいている（菊池 2015 : 16 頁）⁴。

その上で、インド太平洋の平和と安定には、①相互信頼と信認、②紛争の平和的解決、③変化を共通善（common good）への推進力と見なす地域というインド太平洋地域の 3 つの目標の実現のために「インド太平洋友好協力条約（an Indo-Pacific wide treaty of friendship and cooperation）」に向けて協働することを提案した。インド太平洋友好協力条約は、東南アジア友好協力条約（TAC）をモデルとしており、2011 年の東アジアサミット（EAS）で採択された「互恵関係に向けた原則に関する EAS 宣言」で謳われた原則（バリ原則）を強化するものであると主張した（ボックス 1）。

ボックス 1 バリ原則

①独立、主権、平等、領土保全、国家的同一性のための相互尊重の強化、②国際法の尊重、③相互理解、相互信頼、友情の強化、④善隣、パートナーシップ、共同体構築の促進、⑤平和、安定、安全保障、繁栄の維持、共同体構築の促進、⑥他国の内政への不干渉、⑦国連憲章に整合的な形で、武力による威嚇および他国への武力行使の放棄、⑧穏健派の意見増進などを通じた、民族的、宗教的、文化的な伝統・価値の多様性および見解や立場の多様性の認識および尊重、⑨経済低打撃や自然災害に直面した際を含む地域の回復力の強化、⑩基本的自由の尊重、人権の促進、社会的正義の促進、⑪相違や紛争の平和的解決、⑫EAS 内部および他の地域枠組みと互恵的な協力の強化

(出所) 外務省、互恵関係に向けた原則に関する東アジア首脳会議 (EAS) 宣言 (仮訳)、2011 年 11 月 19 日)

インドネシアの構想への ASEAN 各国の反応は積極的なものではなかった。2013 年の第 46 回 ASEAN 外相会議の対応はインドネシアのインド太平洋構想への留意であり、2014 年 5 月の ASEAN 首脳会議の議長声明での言及はインドネシアのインド太平洋友好協力条約への努力への歓迎の表明だった。8 月の ASEAN 外相会議は歓迎の意を表明し、ASEAN 中心性を維持することの重要性を強調し、そうした枠組みの可能性を探索することを高級実務者に要望した。その後、2015 年から 17 年の 3 年間は、ASEAN の会議の議長声明でインド太平洋構想が言及されることはなかった⁵。これは、マルティ外相が交代したこととインド太平洋構想に緊急性がなかったためである。

(2) レトノ外相のインド太平洋協力構想

2014 年にインドネシアではジョコ・ウィドド (ジョコウィ) 政権が成立した。ジョコウィ政権では、グローバルな海洋軸 (Global Maritime Axis : GMA)⁶ というビジョンを打ち出した。ジョコウィ大統領の外交顧問のリザル・スクマは、インド洋と太平洋においてインドネシアが直面している地理的、地戦略的、地経済的な現実を強調して、GMA を 2 つの海の間のパワーと説明している。GMA には 5 つの柱がある。①海洋文化の再興、②海洋資源管理、③海洋インフラと連結性の開発、④海洋防衛力の強化、⑤海洋外交の推進、である⁷。

2014 年第 9 回 EAS では、ジョコウィ大統領は、海洋を資源獲得、領域紛争、海洋での優位に利用する国と対比させて、インドネシアは強力な海洋国家としてインド太平洋地域の平和と安全を維持すると述べている。

ジョコウィ政権のインド太平洋構想は、「インド太平洋協力構想（Indo-Pacific Cooperation Concept）」である。2018年5月のレトノ外相のジャカルタでの演説によると、同構想は「開放、透明性、包摂、対話、協力、友好と国際法の尊重」を原則とし、ASEANの一体性と中心性を強調し、インド洋への新たな投資とアジア太平洋への成熟した投資を連携させることを目指している⁸。構想では、①国際法を尊重し、対話と紛争の平和的解決を促進し、力の行使を避ける環境の創出をASEANは続ける、②ASEANはテロ、薬物取引、人身取引、海賊等国境を越える安全保障の課題に取り組む必要がある、③ASEANは開かれ、公平なエコシステムを通じてインド洋と南太平洋に新たな成長センターを創出していると述べている。レトノ外相のインド太平洋協力構想は、インド太平洋友好協力条約を提案していないが、基本的な要素でマルティ外相の構想と共通するものであった⁹。

レトノ外相は2018年8月にEASの第8回参加国外相会議にインド太平洋協力構想を提出した。レトノ外相は、新たなメカニズムを作り既存のメカニズムに代わるものではなく、既存のメカニズムを使い協力を強化することを保証した。EASでの各国の反応は積極的なものではなく、議長声明はインド太平洋構想について意見交換を行い、ASEAN中心性、開放、透明性、包摂、ルールに基づくアプローチなどの原則を含むインド太平洋構想の議論の進展を期待するというものだった。

（トランプ大統領のARIA署名）

インドネシア政府は2019年に入ると構想の実現への動きを活発化させた。契機となったのは、2018年12月31日の米国のアジア再保証推進法（Asia Reassurance Initiative Act: ARIA）へのトランプ大統領の署名である。ARIAは、インド太平洋地域は米国の安全保障上の利益、地域の平和と安定を損なう恐れのある深刻な安全保障上の脅威に直面しており、米国が支持する国際システムの中核的な信条が中国、北朝鮮、国際テロ集団の挑戦を受けていると述べ、脅威と戦うために同盟国、パートナーと協働する重要性を強調している。そして、安全保障と防衛協力の拡大とインド太平洋における強力な軍事的プレゼンスの維持を強調している。ASEANについては、戦略的パートナーシップに関係を引き上げるべきとしている。南シナ海などでの航行や飛行の自由作戦を定期的に行うなど中国けん制色の強い内容である。

ARIAは、①インド太平洋地域における米国の安全保障利益の促進、②インド太平洋地域における米国の経済的利益の促進、③インド太平洋地域における米国の価値の促進、の3部

から構成されている¹⁰。米国の長期戦略に基づく、包括的で多面的なインド太平洋政策を提示しており、トランプ政権の「自由で開かれたインド太平洋戦略（FOIP）」枠組みにより、米国の同盟国やパートナーに対してインド太平洋地域への米国のコミットメントを再保証（reassure）ものである。同法では、安全保障・防衛協力プログラムに5年間で毎年15億ドル、サイバー・セキュリティ協力に毎年1億ドルなどが割り当てられている。

（インドネシアの粘り強い外交）

ARIA 成立から間をおかず、2019年1月9日にレトノ外相は年頭の政策演説で、太平洋とインド洋はインドネシアにとって「一つの地戦略的劇場（Single Geo-strategic Theater）」であり、インド太平洋は資源獲得、領域紛争、海洋での優位のための競争の場となつてはならないと述べた。1月20－21日のASEAN 外相会議でインドネシアのインド太平洋協力構想を受け入れるように要請したが、合意に至らなかった。

レトノ外相はASEAN 首脳会議での採択を目指して、その後、ロビイングを継続した。3月20日には、ジャカルタでASEAN と対話国の18カ国の外相、副大臣などが出席するインド太平洋協力に関するハイレベル対話を開催した。3月には、インドネシア南太平洋フォーラム（Indonesia-South Pacific Forum: ISPF）を開催し、15カ国が参加した。こうした外交努力を重ねて、2019年6月23日の第34回ASEAN 首脳会議でインドネシアの提出したAOIP が採択された。

インドネシアが独自のインド太平洋構想を提示してから、ASEAN が採択するまで6年かかっている。インド太平洋構想が外交課題になるのは、2016年以降、とくに米国がFOIPを発表した2017年以降であり、マルティ外相のインド太平洋友好協力条約は時代と状況に先んじていた。レトノ外相のインド太平洋協力構想もASEAN 関連会議に何度も提案されたが合意を得られず、2019年の第34回ASEAN 首脳会議でようやく採択された。

表1 インドネシアのインド太平洋構想の経緯

2013年5月	マルティ外相「インド太平洋についてのインドネシアの視点」演説。
2013年6月	第46回ASEAN 外相会議インドネシアのインド太平洋構想に留意。
2014年5月	ASEAN 首脳会議、インドネシアのインド太平洋友好協力条約への努力に歓迎を表明。
8月	ASEAN 外相会議も同様に歓迎の意を表明。
2018年5月	レトノ外相「インド太平洋協力構想」演説。

8 月	第 8 回 EAS 参加国外相会議にインド太平洋協力構想を提出。
12 月	トランプ大統領アジア再保証推進法案（ARIA）に署名。
2019 年 1 月	ASEAN 外相会議で提案したが合意に至らず。
3 月	インド太平洋協力に関するハイレベル対話。
3 月	インドネシア南太平洋フォーラム開催。
6 月	第 34 回 ASEAN 首脳会議で AOIP 採択。

（出所）各種資料により作成。

（3）なぜ ASEAN の合意まで多くの時間を要したのか

ASEAN 諸国は、インドネシアの提示した ASEAN 中心性、開放、透明性、包摂、ルールに基づくアプローチなどのインド太平洋構想の原則に賛意を示していた¹¹。しかし、ASEAN 加盟国の合意に時間を要した背景には、加盟国のインド太平洋構想への見解が一致していなかったことがある。インドネシアは積極的でベトナム、シンガポール、タイは反対ではないが、マレーシア、フィリピン、カンボジア、ラオスは沈黙を守っていた¹²。AOIP はインドネシアの作成した草案を承認したものである¹³。

次に、日米のインド太平洋構想（FOIP）が中国へのけん制色が強かったためである。日本、米国など域外大国が主導する FOIP に参加することで米中対立の中で米国よりとなり ASEAN の規範である中立とともに ASEAN 中心性が損なわれる懸念があったことだ。レトノ外相は、カンボジア外相に対して新たな地域メカニズムの導入を考えていないと約束したと報じられている¹⁴。既存の ASEAN 主導のメカニズム（たとえば EAS）には中国が含まれており、中国排除や封じ込めの可能性を除くことができる。カンボジアの新たなメカニズムへの反対には中国の影響が否定できない。インドネシアのインド太平洋構想には、ASEAN のリーダーとしてのインドネシアの地位の強化という意図がみえたことも加盟国が消極的だった理由の一つであろう¹⁵。

（4）評価すべきインドネシアの構想と役割

インドネシアの構想については次のような批判がある¹⁶。インドネシアの唯一の目的は、交渉力を脅かすような紛争に巻き込まれることを避けることである。唯一の選択肢は地域の緊張を緩和し、現状を維持する多国間の制度的なアプローチである。インドネシアは自国を誠実な仲介者、主要なバランスーとみなしており、ASEAN 中心性に依拠して影響力を振

ることができる。ジョコウィ政権は中国の投資を切望しており、中国を封じ込めるために他国と協力することはない。インドネシアのインド太平洋構想は何もせず現状を維持するの
に等しく、経済社会文化協力を超える具体的な内容がない。

しかし、インドネシアのインド太平洋構想に向けての一連のイニシアティブは評価すべきである。まず、①域外大国がインド太平洋構想を進めようとする状況下で平和と協力という ASEAN 独自の構想を提示したこと、②消極的だった ASEAN 各国を粘り強く説得し ASEAN の構想として採択させたこと、③インド太平洋における ASEAN 中心性を強く打ち出し、重要性を再確認させたことなどによる。中国が一带一路構想を積極的に展開し、日本と米国が中国に対抗して FOIP 構想を打ち出し、豪州とインドを加えた QUAD が復活するなど域外大国によるインド太平洋での地域秩序形成を巡っての対立と競争が激しくなる中で ASEAN の中心性が脅かされていたからである。

2. ASEAN のインド太平洋構想の概要

ASEAN のインド太平洋構想 (ASEAN Outlook on the Indo-Pacific: AOIP) は、全体で 5 頁という短いもので、①背景と理由、②主要な要素、③目的、④原則、⑤協力分野、⑥メカニズムから構成されている¹⁷。

(1) 背景と理由

アジア太平洋地域とインド洋地域が世界で最もダイナミックな経済発展の中心となっており、地政学および地戦略的な (geostrategic) シフトが起きていること、貧困削減と生活水準向上のための協力の機会がある一方で、強国の台頭による不信、誤算、ゼロサムゲーム的な行動パターンを避ける必要がある。東南アジアはインド太平洋地域の中心にあり、ASEAN が主導して経済および安全保障上の地域制度枠組み (アーキテクチャ) を形成しこの地域の人々に平和、安全、安定と繁栄をもたらすことは ASEAN の利益になる。包摂的な地域制度枠組みの発展に関与してきた ASEAN はインド太平洋の協力ビジョン作りにリーダーシップを発揮し、中心的な役割を果たす必要がある。権益を求めての競合が行われる戦略的な環境で ASEAN は誠実な仲介者であり続ける必要がある。

ASEAN の首脳は、ASEAN 中心の地域制度枠組みを強化する構想である「インド太平洋

に関する ASEAN の見解（ASEAN Outlook on the Indo-Pacific : AOIP）」の議論を深めることに合意した。この構想は、新たなメカニズムを創出することや既存のメカニズムに取って代わることを意図していない。この構想の意図は ASEAN 共同体構築を促進し既存の ASEAN 主導のメカニズムに新たなモメンタムを与えることである。ASEAN のインド太平洋構想は、ASEAN 中心性を基本原則とし、東アジアサミット（EAS）などの ASEAN 主導のメカニズムを対話と協力実施のプラットフォームとする。

（2）主要な要素

東南アジアと周辺地域での地域制度枠組み形成における ASEAN の役割および ASEAN 憲章などの ASEAN の規範と原則に従い、ASEAN のインド太平洋構想は次の要素から構成される。

- ・ アジア太平洋とインド洋を隣接する領域ではなく、緊密に統合され相互に連結し、ASEAN が中心のかつ戦略的な役割を果たす地域として捉える視点。
- ・ 競争ではなく対話と協力のインド太平洋地域。
- ・ 全ての関係者にとって開発と繁栄のインド太平洋地域。
- ・ 海洋領域と地域枠組みの発展の視点の重要性。

（3）目的

ASEAN のインド太平洋構想は、既存のメカニズムを支持・安定させ、付加価値を与えねばならない。その目的は、①協力の指針となる見通し(outlook)を提供する、②共通課題への取り組み、ルールに基づく地域制度枠組みの支持、経済協力推進、信認と信頼強化により、平和、安定、繁栄を可能とする環境を作る、③ASEAN 共同体形成プロセスの強化と既存の ASEAN 主導のメカニズムの強化、④海洋協力、連結性、持続可能な発展目標（SDG）を含む ASEAN の優先協力分野の実施、である。この構想は、EAS、ARF、ADMM+、EAMF(拡大 ASEAN 海洋フォーラム)などの既存の ASEAN 主導メカニズムの強化と最大限の活用を含む。平和、自由、繁栄の維持への貢献を意図している。

（4）原則

ASEAN のインド太平洋構想の原則は、ASEAN 中心性、開放、透明性、包摂、ルールに

基づく枠組み、良き統治、主権尊重、不干渉、他の協力メカニズムとの補完、平等、相互の尊敬、相互信頼、互惠、国連憲章、1982 年国連海洋条約など国際法の尊重、ASEAN 憲章およびその他の ASEAN の協定、EAS の互惠関係に向けた原則（2011 年）である。

東南アジア友好協力条約（TAC）の重要性と地域の平和と安定の維持への 40 年以上の貢献を認識し、インド太平洋地域の国々の友好と協力の促進のために紛争の平和的解決、威嚇や武力の使用の放棄、法のルール of the 促進を含む TAC の目的と原則が ASEAN のインド太平洋構想の指針となる。

ASEAN のインド太平洋構想は、戦略的な信頼とウィンウィンの協力のためのモメンタムを創り出し、TAC の目的と原則の ASEAN による再確認とインド太平洋地域の国々の関係で TAC の目的と原則を適用することにより強化される。

（5）協力分野

ASEAN のインド太平洋構想に主要要素の実現のために次の分野で協力を行う。

海洋協力

- ・ この地域の国々が直面する現存および新たに起こりつつある挑戦は公然たる紛争になりうる未解決の海洋領域紛争など海洋問題を巡って動いている。加えて、海洋資源の持続可能な開発と海洋汚染はますます重要な問題になっている。より焦点を絞った、平和的で包括的な方法でこれらの問題を防ぎ、管理し、最終的に解決する必要がある。
- ・ 1982 年国連海洋法を含む国際法の普遍的に認められた原則に従った次の海洋協力を行う。
 - ① 紛争の平和的解決、海洋の安全と安全保障、航行と飛行の自由、越境犯罪への取り組み。
 - ② 海洋資源の持続可能な管理、海洋の連結性の促進、沿海のコミュニティの生活の保護と小規模漁業コミュニティ保護、ブルーエコノミー開発、海洋商業の発展。
 - ③ 海洋汚染、海面上昇、海洋のごみ、海洋環境と生物多様性の保護、環境にやさしい航海。
 - ④ 海洋科学研究、研究開発、経験とベストプラクティスの共有、能力醸成、海洋災害管理。

連結性

第 2 の協力分野は連結性の連結（connecting the connectivities）である。インド太平洋地域の連結性イニシアティブは ASEAN 連結性マスタープラン（MPAC）2025 を補完・支持する。連結性についての ASEAN ビジョンと ASEAN 連結性についての第 6 回東アジアサミット宣言がインド太平洋地域の連結性についての ASEAN の見解の指針となる。イン

ド洋と太平洋地域の国々の統合と相互連結の増大には、物的、制度的、人と人のリンケージを含めた連結性インフラの建設のための投資と事業が必要である。環境およびエコロジーへの影響と検討がこうしたイニシアティブの長期的持続性を確実にするために考慮されねばならない。

- ① MPAC を強化するために協力の優先分野を探る。
- ② インフラを含むプロジェクトの資金動員のため官民連携（PPP）の推進。
- ③ IORA,BIMSTEC,BIMP-EAGA,メコン地域協力枠組みなどのサブリージョナルな地域枠組みとのシナジーを探る。
- ④ 継ぎ目のないASEAN スカイの確立。
- ⑤ 人と人の連結性。
- ⑥ ASEAN スマートシティネットワーク（ASCN）を通じた急速な都市化への対処。

国連持続的開発目標：SDG

SDG は ASEAN 共同体ビジョン 2025 および広範な EAS ビジョンに沿っている。インド太平洋地域で AOIP により SDG を実現するという共通の目標は、この地域のグローバルコミュニティへの貢献である。

- ① デジタル経済を活用した SDG 目標の達成。
- ② SDG と ASEAN 共同体ビジョン 2025、2030 年国連アジェンダなどの補完、調整。
- ③ ASEAN 持続的開発研究対話センターとの協力。

その他の協力分野

- ① 南南協力（南南三角協力を含む）。
- ② 貿易円滑化と物流インフラとサービス。
- ③ デジタル経済と越境データフローの円滑化。
- ④ 中小零細企業。
- ⑤ 科学、技術研究開発、スマートインフラ。
- ⑥ 気候変化、災害リスクマネジメント。
- ⑦ 活動的高齢化とイノベーション。
- ⑧ AEC2025 ブループリントと RCEP などの FTA の実施による経済統合深化。

- ⑨ 第4次産業革命に向けた準備のための協力。
- ⑩ 零細中小企業を含む民間企業の地域及びグローバルなバリューチェーンへの参加。

(6) メカニズム

AOIP が ASEAN のインド太平洋への関与の指針となる。EAS など ASEAN 主導のメカニズムをベースにした革新的で学際的かつ補完的アプローチを通じた共通の利益を持つ課題について、Outlook はインド太平洋における他のメカニズムとの協力の可能性を認識している。EAS、ASEAN+メカニズム、ARF、ADMM+など ASEAN 主導のメカニズムにより戦略的議論と実地的な協力を追求する

3. AOIP の意義、特徴、各国の反応

(1) AOIP の意義と特徴

1) ASEAN 中心性の維持

AOIP の意義は、日本、米国、豪州、インドという域外大国が主導してきたインド太平洋構想において、ASEAN の規範と 40 年の安定と平和の地域形成に基づく ASEAN の構想を提示したことである。中国による一帯一路構想と海洋進出、米国と日本の FOIP、豪州とインドを加えた QUAD などインド太平洋地域での新たな地域秩序形成の動きは、①東南アジアでの大国のパワーゲームの復活、②東南アジアの将来が域外大国の相互関係により決められる可能性、③中核となる域外大国が独自の地域秩序ビジョンを進め始めたこと、を意味している¹⁸。そのため、ASEAN を中心とする地域秩序が終焉を迎えるのではという懸念がでており、ASEAN はどのように対処するのかが課題になってきた。AOIP はその課題に対する回答である。

日本と米国の構想（FOIP）は中国への一帯一路構想と海洋進出へのけん制を色濃く出しており、とくに米国の FOIP は軍事的な要素が強い。米中対立がインド太平洋地域で深刻化し、ASEAN が巻き込まれることへの警戒感と懸念から、AOIP は平和、対話、協力を強調したものとなっている。

AOIP では ASEAN 中心性が原則となっており、TAC の目的と原則をインド太平洋地域に拡大適用するとしている。注目されるのは、新たなメカニズム（協力枠組み）を作るので

はなく、既存のメカニズムによりインド太平洋構想を議論し実施していくとしていることである。既存のメカニズムは、ASEAN が主導する枠組みを意味しており、具体的には東アジアサミット (EAS)、拡大 ASEAN 防衛大臣会合 (ADMM プラス)、ASEAN 地域フォーラム (ARF) などである。AOIP ではインド太平洋構想の議論や協力は ASEAN 主導のメカニズムで行うとしている。ASEAN 主導の枠組みは、ASEAN 中心性が運営の原則となっており、既存の枠組みでインド太平洋構想を進めることは ASEAN 中心性を原則と議論と実施の枠組みという二重の意味で担保することを意味している。

表 2 5つのインド太平洋構想の概要比較

国名	日本	米国	豪州	インド	ASEAN
名称	自由で開かれたインド太平洋構想 (FOIP)	自由で開かれたインド太平洋構想 (FOIP)	安定し繁栄するインド太平洋 (包摂的で繁栄するインド太平洋)	自由で開かれた包摂的なインド太平洋 (FOIP)	ASEAN のインド太平洋に関する見解 (AOIP)
発表年	2016 年	2017 年	2017 年	2018 年	2019 年
範囲	太平洋とインド洋、アジアとアフリカ	米国西海岸からインド西海岸まで	東南アジアを地理的な中心とする太平洋とインド洋	アフリカを含む (リンク・ウエスト政策)	(注)
原則、協力分野など	①基本原則の推進 (法の支配、航行の自由、自由貿易など)、*②経済的繁栄 (質の高いインフラ、3つの連結性、) ③平和と安定の確保 (海上法執行能力などの能力構築支援、人道支援、災害救援、海賊対策など)	①経済 (開発指向型投資利用促進法、開発金融公社設立、米 ASEAN スマートシティ協力など、②ガバナンス (インド太平洋透明性イニシアティブ)、③安全保障 (5 億ドルを超える安全保障支援、太平洋軍のインド太	①平和的な紛争解決、②自由な市場、③包摂的で開放された経済統合、④航行と飛行の自由、⑤経済と安保への米国の強い関与、⑥地域秩序での中国の主導的役割	①自由、開放、包摂、② ASEAN が中心、③対話とルール、平等、④航行の自由、紛争の平和的解決、⑤バランスのとれた通商環境と RCEP、⑥連結性、主権と領土の尊重、⑦分断の拒絶	ASEAN 中心性強化、開放、透明性、包摂、ルールに基づく枠組みなど協力は、①海洋協力、②連結性、③SDG、④その他

		平洋軍への改称、航行の自由作戦の頻度増加)			
特徴	質の高いインフラに 5 年で 1100 億ドル投資	安全保障分野を重視	中国を排除しない	ASEAN 中心性、中国を排除しない	既存の ASEAN 主導メカニズム、中国を含める

(注) AOIP ではインド太平洋の地理的な範囲は明示されていないが、インドネシアのマルティ外相は、北は日本、南西はインド、南東は豪州に囲まれた地域と述べている。

(出所) 石川 (2019) により作成。

2) 中国を排除しない構想

ASEAN 主導の枠組みは中国が参加しており、ASEAN 主導の枠組みで進める ASEAN のインド太平洋構想は中国を排除していないことになる。原則の一つに「包摂」が挙げられているが、インドのインド太平洋構想で示されたようにインド太平洋構想における「包摂」は中国を除外しないことを意味する。競争ではなく対話と協力のインド太平洋地域を目指すとしていることも中国を除外しないということの意味する。中国はインド太平洋構想の枠組み、とくに **QUAD** を中国封じ込めであるとして警戒していた。AOIP を進める枠組みに中国が含まれていることには中国の意向が反映している可能性がある。

ASEAN のインド太平洋構想は、モディ首相が 2018 年 6 月に発表したインドの「自由で開かれた包摂的なインド太平洋構想」に類似している¹⁹。インドの構想は、①地域の全ての国を含む包摂的な構想、②ASEAN がインド太平洋構想の中心、③分断のどちらかに属することを否定、④連結性の重視などの特徴を持っている。同構想では、米国、日本、豪州、インドの協力枠組みである **QUAD** について一度も言及していない。

3) 経済社会協力を重視

協力分野は、海洋協力では海洋の安全と安全保障、航行と飛行の自由など日米の協力分野と共通する分野もあるが、環境問題や資源管理、小規模漁業コミュニティの保護、災害管理など社会開発分野が多く、連結性では ASEAN 連結性マスタープラン 2025 の補完・支援に重点を置いている。SDG とその他の分野では、貿易円滑化と物流インフラとサービス、中小零細企業、科学、技術研究開発、スマートインフラ、AEC2025 ブループリントと RCEP などの FTA の実施による経済統合深化、第 4 次産業革命に向けた準備など ASEAN 経済共

同体と共通する分野が挙げられている。協力は ASEAN および ASEAN 各国が対象となっており、日本の FOIP のようにアフリカや太平洋島嶼国を含めての協力とはなっていない。

経済開発および ASEAN 共同体構築に資する協力分野が中心となっており、質の高いインフラ、海上法執行能力の強化（日本）、安全保障支援、航行の自由作戦の増加（米国）など日米の構想とは異なっている。協力を重視している点は、「インド太平洋協力構想」というインドネシアのビジョンが反映している。

（2）AOIP に対する主要対話国および ASEAN 各国の対応

1) 主要対話国の対応

中国を除く主要対話国は AOIP に対し歓迎の意を表明している。米国は、7 月 2 日に ASEAN 代表部が AOIP を歓迎という声明を発表した²⁰。声明では、AOIP は ASEAN の一体性を確認する重要な一歩であり、包摂、開放、法の支配、良き統治、国際法尊重という AOIP のコンセプトは米国の FOIP のビジョンおよび同盟国やパートナーの地域アプローチと収斂するとしている。米国は ASEAN 中心性をインド太平洋戦略の中核とし続けるとし、ASEAN との協働を期待すると述べている。

第 9 回 EAS 参加国外相会議（8 月 3 日、バンコク）では、ASEAN 中心性に対する支持を再確認し、AOIP を高く評価するとともに既存の ASEAN 中心の枠組みを通じ、AOIP に明記された分野における協力を促進するために ASEAN と協働することが議長声明に盛り込まれた。

11 月 4 日にバンコクで開催された第 14 回 EAS の議長声明では、①インド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）の採択に留意、②ASEAN がアジア太平洋およびインド洋地域関与の指針とするとの ASEAN の意図に留意、③既存の ASEAN 中心の枠組みを通じて AOIP で特定され共通の関心事項である分野での関与および国際協力を促進するために ASEAN と協働することに関するさらなる議論に期待、④2020 年にジャカルタで ASEAN インド太平洋インフラと連結性フォーラムが開催されることが告知、が表明された。

同会議では、安倍総理が次のように AOIP を高く評価し支持する発言を行っている。① ASEAN が一体性と中心性を示し、AOIP を発表したことは非常に画期的、②AOIP を全面的に支持、③FOIP とのシナジーを実現し、AOIP の具体化に向け協力、④法の支配に基づく海洋安全保障の強化、質の高いインフラを通じた連結性の強化、違法漁業対策を海洋資源の持続的利用などの分野で考え方を共有する全ての国々と協力して行く。

ほかにも、韓国、豪州、インドが G20 サミット（6 月）で AOIP 支持を表明している。中国は、2019 年 7 月 31 日に王毅外相が記者会見で、「ASEAN の開放、包摂、透明性、対立ではなく対話、経済協力の強調、連結性の強化、ともに繁栄を実現するなどの原則と考え方は中国のものと一致している。中国と意思疎通と協調を維持し、地域協力に向けて健全な状況を創出・維持する」と AOIP に対する支持を述べている²¹。

2) ASEAN 各国の対応

インド太平洋の間に位置しながら ASEAN のインド太平洋構想の発表が遅れた理由は、ASEAN 加盟国のインド太平洋構想に対する見解が分かれていたことである。AOIP についても ASEAN 各国で温度差があるとの報道がある²²。しかし、ASEAN 首脳会議で AOIP を採択したことは、ASEAN 各国が AOIP の原則に合意し支持したことを意味しており、その意義は大きい。ASEAN のインド太平洋構想をまとめる議論の過程で焦点となった論点の一つは中国との関係であったと考えられる。中国の反発や中国との対立を避けたいという加盟国の思惑である。

ASEAN 加盟国は全て一帯一路構想に参加しており、自国の開発構想と一帯一路構想を連携させている国も多い。アジアインフラ投資銀行にも全加盟国が参加している。ASEAN 各国の中国の投資への期待は極めて高いのである。とくにカンボジアやラオスは中国の投資と経済援助を受け入れ、一帯一路構想により大型インフラプロジェクトを進めている。中国を排除しない包摂的な枠組みが妥協点だったといえよう。一方で中国の海洋進出面では中国が参加する枠組みの AOIP は実効性が期待できない可能性がある。

ASEAN 中心性も各国の支持を得られた。日本、米国、豪州、インドという域外大国主導でインド太平洋協力が進められており、地理的には中心に位置する ASEAN のプレゼンスが低下し、参加しないことにより ASEAN 中心性が棄損する恐れが強まったためである。

(3) 課題

AOIP の課題は目的を実現するために AOIP をどのように実施するかである。AOIP は指針であり法的拘束力のある文書や条約ではない²³。その内容は原則、目的、協力分野を説明しているが、具体的な措置や行動計画は述べられていない。日本の FOIP は具体的なインフラプロジェクトや措置を示して 1,100 億ドルの資金提供を行うとしている。米国の FOIP も国際開発金融公社の創設と開発金融の倍増、インフラストラクチャ事業支援ネットワークなどの経済イニシアチブ（1 億 1,300 万ドル）など具体的である²⁴。従って、AOIP 実施

のための行動計画を作っていくことが必要である。

重点を置いている協力分野は多くの対象分野が列挙されており、ASEAN だけでこれらを実施するのは難しい。対話国の協力と支援が必要になる。一帯一路構想、FOIP との連携に加え、GMS、IORA（環インド洋連合）、BIMSTEC（環ベンガル湾多分野経済技術協力イニシアティブ）など多くの協力枠組みがあり、こうした枠組みと協力や連携が必要である²⁵。ASEAN は物的連結性、制度的連結性、人的連結性という 3 つの連結性を推進するために ASEAN 連結性マスタープラン（MPAC2025）を実施しているが、インド太平洋に拡大したインド太平洋連結性マスタープラン（MPIC）も相乗効果を高め効率的にインフラ建設を進めるために必要であろう²⁶

ASEAN のインド太平洋構想を提唱し進めてきたのはインドネシアであり、他の ASEAN 各国を説得し AOIP 採択を実現した。AOIP を実施していくためには、インドネシアのイニシアティブが不可欠であり、インドネシアの役割が極めて重要である。

おわりに

日本の FOIP は、経済成長のフロンティアがアジア太平洋からインド太平洋にシフトしているという大きな経済の構造的な変化への戦略的な対応として生まれた構想である²⁷。成長著しいアジアと潜在力に富むアフリカを結びつける成長戦略である FOIP において ASEAN は重要な位置を占める。

日本政府は AOIP への支持と協力を表明している。AOIP の課題は具体性に欠けることである。協力構想の具体化と FOIP のシナジー効果の実現にむけて ASEAN への支援が望まれる。

参考文献

- ・ 石川幸一（2019）「自由で開かれたインド太平洋構想－その意義、内容、課題」、平川均ほか編『一帯一路の政治経済学』文眞堂所収。
- ・ 大庭三枝（2019）「「インド太平洋」の多様性：ASEAN からの視点、「インド太平洋地域の海洋安全保障と『法の支配』の実体化に向けて－国際公共財の維持強化に向けた日本外交の

新たな取り組み」、日本国際問題研究所。

- ・ 菊池努 (2014) 「「インド太平洋」の地域秩序とスイング・ステーツ (Swing States)、地域制度」、『「インド太平洋時代」の日本外交－Secondary Powers/Swing States への対応』日本国際問題研究所、所収。
- ・ 福田保 (2014) 「ASEAN と「インド太平洋条約」」、『「インド太平洋時代」の日本外交－Secondary Powers/Swing States への対応』日本国際問題研究所、所収。
- ・ Acharya, Amitav (2019), “Why ASEAN’s Indo-Pacific outlook matters”, East Asia Forum, August 11, 2019.
- ・ Anwar, Dewi Fortuna (2020), “Indonesia and the ASEAN outlook on the Indo-Pacific”, *International Affairs* 96: 1 (2020), The Royal Institute of International Affairs.
- ・ ASEAN Secretariat (2019), “ASEAN Outlook on the Indo-Pacific”.
- ・ “Asia Reassurance Initiative Act of 2018.” Public Law 115-409 115th Congress. Congressional Records, Vol.164 (2018).
- ・ Congress Research Service, “The Asia Reassurance Initiative Act (ARIA) of 2018”, April 4, 2019.
- ・ Hussain, Nazia (2019), “ASEAN joins the Indo-Pacific conversation”, East Asia Forum, August 16, 2019.
- ・ Jakarta Globe, “Indonesian Presents Indo-Pacific Cooperation Concept at ASEAN Ministerial Meeting”, August 2, 2018.
- ・ Jansen, M. (2018), “What’s in Indonesia’s Indo-Pacific Cooperation Concept?”, *The Diplomat*, 16 May 2018.
- ・ Lee, John (2018), “The “Free and Open Indo-Pacific” and Implications for ASEAN.” *Trends in Southeast Asia*, 2018 No.3. ISEAS.
- ・ Macan-Markar, Marwan (2019), “Indonesia and Singapore feud over ASEAN engagement in Indo-Pacific. *Nikkei Asia Weekly*, July 19, 2019.
- ・ Natalegawa, Marti, “An Indonesian Perspective on the Indo-Pacific”, *Jakarta Post*, 20 May 2013. <http://www.thejakartapost.com/news/2013/05/20/an-Indonesian-perspective-the-indo-pacific.html>
- ・ Suryadinata, Leo (2018), “Indonesia and its Stance on the “Indo-Pacific””, *Perspective*, No.66. 23 October 2018. ISEAS Yusuf Ishak Institute.
- ・ Sulayman, Yohanes (2019), “Whither Indonesia’s Indo-Pacific Policy”, Center for Asian Studies, Institut français des relations internationales.

- ・ Thepchatree, Prapat (2019), Expnding ASEAN's Indo-Pacific Role". East Asia Forum. August 15, 2019.
- ・ U.S. Mission to ASEAN, "The United States Welcomes the "ASEAN Outlook on the Indo-Pacific"". July 2.2019.
- ・ Tyler, Mellisa Conley, " The terms of the debate might be finally settled, but the contest will go on. And on." The Interpreter, June 28, 2019.
- ・ Weatherbee, Donald E. (2019), "Indonesia, ASEAN, and the Indo-Pacific Cooperation Concept" , *Perspective*, No.47, 7 June 2019, ISEAS Yusuf Ishak Institute.

-
- 1 2018 年 11 月に「自由で開かれたインド太平洋戦略 (strategy)」から「自由で開かれたインド太平洋構想(vision)」に変更された。
 - 2 FOIP および豪州、インドの構想については、石川 (2019) を参照。
 - 3 Natalegawa, Marti (2013)
 - 4 菊池 (2014) 16 頁。
 - 5 Weatherbee (2019) P.3.
 - 6 グローバルな海洋支点 (Global Maritime fulcrum: GMF) ともよばれる。
 - 7 Anwar (2020)
 - 8 構想は公表されていない。説明は、Jansen am (2018)による。
 - 9 Suryadinata (2018), p.5.
 - 10 Congress Research Service, April 4, 2019. および "Asia Reassurance Initiative Act of 2018."
 - 11 大庭 (2019) 86 頁。
 - 12 Lee (2018) p.27.なお、2019 年の第 34 回首脳会議ではタイはインドネシアの構想をバックアップしたと報じられている。Macan-Markar, Marwan (2019)
 - 13 Anwar (2020) p.127.
 - 14 Jakarta Globe, August 2, 2018
 - 15 Jansen am (2018)は、インド太平洋協力構想はインドネシアの ASEAN の非公式なリーダーおよびミドル・パワーとしての地位を固めるものと指摘している。
 - 16 Sulaiman (2019), p.25.
 - 17 ASEAN Secretariat (2019)
 - 18 Sukuma (2019)
 - 19 インドのインド太平洋構想については、石川 (2019) を参照。
 - 20 U.S. Mission to ASEAN, July 2.2019.
 - 21 Ministry of Foreign Affairs, The Peoples Republic of China, July 31, 2-19.
 - 22 たとえば、マレーシアのマハティール首相は、地域のコンセプトは国連になるまで拡大を止めないと冷めたコメントを述べたという。Tyler (2019).
 - 23 Acharya (2019)

-
- 24 日本と米国の FOIP のプロジェクトについては、石川（2019） 223－226 頁、229－232 頁を参照。
- 25 Hussain, Nazia (2019), “ASEAN joins the Indo-Pacific conversation”, East Asia Forum, August 16, 2019.
- 26 Thepchatree, Prapat (2019), Expnding ASEAN’s Indo-Pacific Role”. East Asia Forum. August 15, 2019.
- 27 石川（2019） 218－219 頁。

〔禁無断転載〕

ASEAN のインド太平洋構想（AOIP）：
求められる構想の具体化と FOIP との連携

発行日 2020 年 3 月

編集発行 一般財団法人国際貿易投資研究所（ITI）
〒104-0045 東京都中央区築地 1 丁目 4 番 5 号 第 37 興和ビル 3 階
TEL : (03) 5148-2601 FAX : (03) 5148-2677

Home Page : <http://www.iti.or.jp>
